

## 行事食から見た食生活の動向—正月の行事食について—

○永弘悦子\*\* 坂井良子\* 門田景子\* 堤ちはる\*\* 田中初美\*\*  
 中島史絵\*\* 吉中 哲子\* (\*日本女子大 \*\*青葉学園短大)

**目的:** 食生活の変化は激しいと言われているが、一方保守的な性格も強い。そこで正月の行事食について調査を行った。その結果を20年前演者らが行った第1回目(1979年)の調査資料<sup>1)</sup>と比較し20年間の変遷を探りたいと考えた。

**研究方法:** 調査は郵送による質問紙法を用い、調査期間は1999年1月~2月、調査対象者は家政系の大学及び短大の卒業生である。調査項目はほぼ第1回目の調査に準じた。統計はSPSSを用いて調査対象者の年齢、地域生などから分析し、1979年の調査と比較検討した。

**結果及び考察:** 有効回答1909,回収率は49.6%であった。餅については高い喫食率を示し、形状や入手方法で地域による差がみられた。入手方法では、自宅で搗く者の割合が減少した。雑煮についても全国的に高い喫食率を示し汁の種類及び具で居住地による相違がみられ、20年前と同様の傾向があった。祝い酒の中の屠蘇酒の飲酒率は1979年とほとんど変化がなかった。雑煮以外のおせち料理については調達方法で手作り率が減少し、既製品の購入割合が増加する傾向がみられた。おせちセットの購入状況は、20年前と比べ全体で約6倍の増加と、大きく変化し、価格は平均2~2.5万円が最も多かった。正月料理の総費用は、1~3万円までが最も多いが、年齢による差が見られた。

1) 巨組 吉中 岩倉 石綿:家政学会誌 Vol132 No6 (1981)